

■いわて自然ノート

ウミミズカメムシの北限はどこか

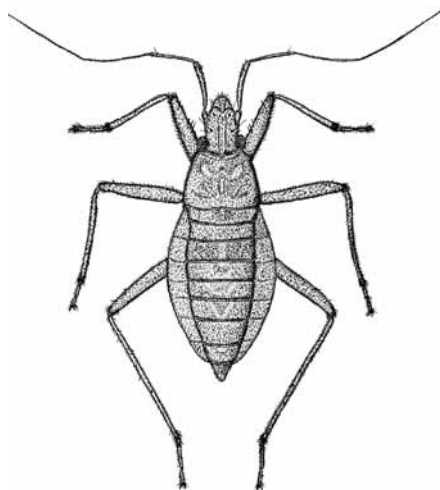
学芸調査員 中村 学

■ウミミズカメムシとは

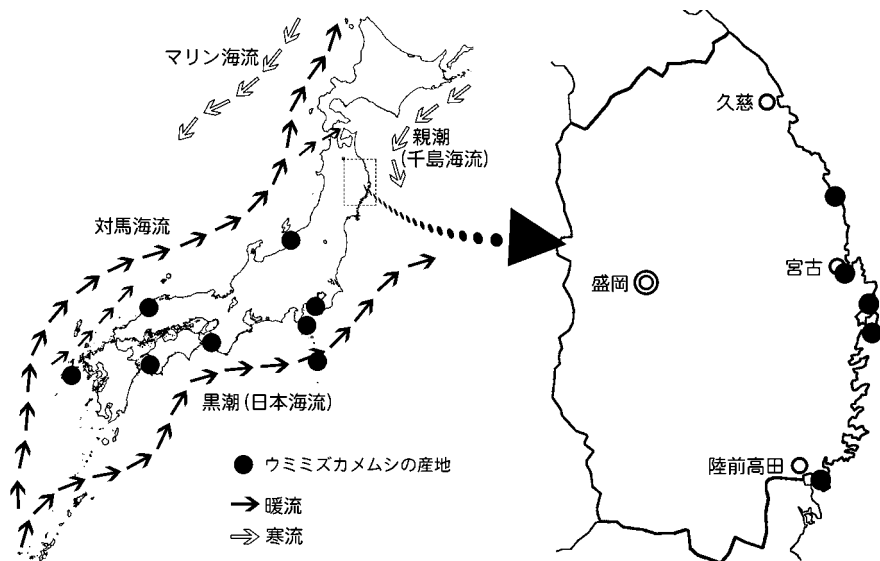
ウミミズカメムシという名前は、あまり知られていないのですが、岩手県を北限とする環境指標としても重要な昆虫です。この昆虫は、半翅(カメムシ)目ミズカメムシ科に属す体長4mmほどの小さな虫で、成虫になっても翅はありません。名前のおり海を生活場所にしており、一般的には海食洞や岩礁地帯に生息するとされています。昆虫は地球上で最も繁栄しているグループですが、海だけは苦手としており、海にすむ種類は多くありません。そのような中でウミミズカメムシは、珍しい存在といえます。

ほかに水辺を生活の場とする水生カメムシの仲間としては、タガメやマツモムシなどが有名ですが、ミズカメムシ類は、水中を泳ぐのではなく、水面を「走る」という表現が近いように思います。このグループの進化した形が、水面を滑るように移動するアメンボと考えられています。

ウミミズカメムシは、1929年に和歌山県の白浜で最初に発見され、新種記載されました。その後伊豆諸島、神奈川県三浦半島、長崎県五島列島、愛媛県、鳥根県などで新たな産地が見つかりました。産地の多くは黒潮が流れる地域にあります。



ウミミズカメムシ *Speovelia maritima* Esaki



ウミミズカメムシの分布

しかし、最初に発見された和歌山県白浜では、開発によって絶滅してしまい、伊豆諸島や三浦半島でもかなり減っていると言われます。昨年島根県では、49年ぶりに採集されたという話題が地元紙に掲載されましたが、自然の海岸線が減少することによって、その生息地が狭められていることは確かなようです。

■岩手での発見

岩手県におけるウミミズカメムシの記録は、私が1987年に、宮古市磯鶏海岸で偶然採集したのが最初です。これまで知られていた産地とはかなりかけ離れた場所での発見でした。

この虫を発見したのは、昆虫採集をしようとか、生物の調査をしようなどとは全く思わずに、ただ海岸を散歩していた時のことでした。波しぶきがかかる岩場に落ちていた古い木片を何気なくひっくり返して見たら、ちよろちよろと歩き回る小さな虫に気づきました。正確な種名はわかりませんが、直感的にこれは珍品に違いなし! と思い、採集用具が何もなくだったので、たまたま持っていたガムが何かの包装用ビニル袋に入れて持ち帰りました。その

後この虫を図鑑で調べ、ウミミズカメムシという珍種であることを知ったのです。

それにしても、なぜ海岸で木片をひっくり返したのか、疑問に思われるかもしれませんが、長年昆虫採集をしている「虫屋」の直感としか言いようがありません。

その翌年、陸前高田市の広田半島にやはり昆虫採集とは別の目的で行ったとき、何となく気になる石をひっくり返したら、ウミミズカメムシが居たのです! 付近の石も探しましたが、虫が居たのは最初に見た石だけでした。これも虫屋の直感でしょうか。

ただ、この虫のことは、その後しばらくの間すっかり忘れていました。

■岩手の産地

2002年になり、私が博物館に赴任したのを契機に再び調べてみようと思い、文献を集めてみました。文献は非常に少ないのですが、宮古市の標本は北限記録であり、しかも他の産地と離れた特徴的な分布であることがわかってきました。

そこで、磯鶏の採集地に十数年ぶりに行ってみると、既に埋め立てられ、風景は一変していました。気を取り直して、すぐ南に位置する藤の川海岸では何とか幼虫を



岩手県船越半島の生息地



岩泉町小本の生息地（現在最も北の採集地）

採集できました。ただ、藤の川ではその後何度探しても発見できていません。

2004年になり、成虫の出現時期に合わせて、計画的に岩手県沿岸全域を調査してみることになりました。その結果、宮古市重茂半島南部、山田町船越半島で新たな生息地が確認されたのです。いずれの産地も特殊な環境ではなく、三陸海岸ではよくある砂浜の脇にある岩場から見つかっています。

これらの産地は、岩手では比較的温暖な地域であり、船越半島付近が北限のタブノキや、これを食べるアオスジアゲハに代表される、暖地性の生物の分布と重なるのではと思わせる結果でした。

■北限はどこか

ところが、昨年新たな発見があり、分布域はわからなくなってきました。

普代川で水生昆虫の調査をした帰りに、時間があつたので、ふと思い立って岩泉町の小本漁港付近の海岸に立ち寄ってみました。ウミミズカメムシを探し始めて10分ほどで幼虫を2個体採集できたのです。つまり、北限があっさり更新されたのです。

岩手を除く分布を見ると、いかにも暖流の影響を受ける南方系の種と増えてきます。ところが、沖縄では、研究者による調査もかなり行われていますが、見つからないということです。そこで岩手の産地

が明らかになり、分布域は一気に北へ広がりました。岩手には産地が多く、特殊な環境という訳ではありません。しかも、個体数も多いようです。南方系の種が、北限の厳しい環境で細々と命脈を保っているという感じではありません。つまり、ウミミズカメムシは南方系の種であるという説には疑問が残ります。まだまだ北に産地があったとしても不思議はないと思われます。

■環境指標として

ウミミズカメムシの生息地が失われたり、減少している大きな原因は、開発によ

るところが大きいようです。しかし幸いにも岩手県は、自然海岸率が島根県に次いで全国2位、海岸線の長さにするとな国一を誇ります。このことは、岩手でウミミズカメムシの産地が次々と確認されていることと無関係ではないと思われます。

ウミミズカメムシは、小さく目立たない地味な虫で、美しい声で鳴くわけでも、光を放つわけでもありません。しかし、ウミミズカメムシが生息する海岸は、美しい自然が残る海であることを証明しているのです。この北限の珍種がすむ環境を、是非とも大切にしていきたいものです。



山田町船越半島のウミミズカメムシ